

## 【基調講演】

# 独学と謂われている野口英世の研究の道程—北里柴三郎との関連をも含めて

殿崎正明

日本医科大学 教育推進室 医史学教育研究会、日本医史学会会員

## 抄 録

財団法人野口英世記念会の専務理事関山英夫先生は、「野口英世は日本で最も多くの伝記を書かれている人物といわれておりますが、それらの全てが、こと野口の済生学舎時代、或いは済生学舎に関する事項については全く想像でしか書かれて来ておりません。野口英世の済生学舎に関する事実の調査を何年かかっても結構ですから、是非お願い致します。」と、約 20 年前に唐沢信安先生に頼まれて今日に至っている。私は、最近 7 年間唐沢先生のご指導のもとで日本医科大学の歴史について勉強させて頂いており、本日は唐沢先生が約 20 年間に亘って調べ上げた野口英世に関する新事実を中心に野口英世と北里柴三郎との関連も含めて紹介する。

野口英世はよく独学で勉強したと云われてきていますが、済生学舎時代前後の事実が判明していなかったために伝えられて来なかったと言う事ができる。従って以下に、

- 1) 野口英世が済生学舎に学んだ事実、
- 2) 渡部 鼎の「病理学的細菌学的検究術式綱要」による指導、
- 3) 済生学舎で誰に何を学んだか、
- 4) 順天堂時代に野口を指導した済生学舎出身の菅野徹三、
- 5) 野口英世の細菌学への転機、
- 6) 伝染病研究所時代、
- 7) 横浜海港検疫所時代、
- 8) 大正四年一時帰国時の済生学舎同窓生による歓迎会、

に分けてその時々で良き師と良き先輩・学友に恵まれた野口英世が、世界的細菌学者を目指してアメリカに渡り活躍することになるまでの済生学舎に関する足跡について報告する。